



学校だより

令和2年10月30日

11月号

めざす子ども像

ともに学び、よりよい生き方を見つけ出すしろさとっ子

横浜市立城郷小学校

120歳を迎えた城郷小

校長 巴 幹晴

「新横浜駅から横浜線に乗り、小机駅に向かう途中、左側の窓からわずかですが本校の体育館棟の赤い屋根が見えます。」

以前、朝会でこんな話をしました。

現在、横浜市内の小学校で赤い屋根の体育館はそう多くはないと思います。こげ茶色や緑色など、景観に溶け込むような色合いをよく見かけます。なぜ、うちの体育館は赤いのだろう……。

明治33年6月に鳥山池公園の近くに高等城郷小学校として生まれた本校は、その後、小机、岸根、菅田、神橋の四つの尋常小学校を併合することになり、大正11年、現在の場所に移転しました。城郷村青年団など約800人あまりの労働寄付行為による地ならしによって、それまでの4倍以上の広さの敷地が整えられ、そこへ赤い瓦の堅牢な校舎が建てられました。その丈夫なつくりは翌年(大正12年)の関東大震災にも倒壊しなかったそうです。

むかしの「赤い屋根の城郷小学校」のイメージを大切にしているのかもしれませんが。

長い歴史の学校には、多くの人とのつながりがあります。

ある年の卒業式では、来賓として来校して下さった岸根高校の副校長先生が、職員玄関の写真パネルを眺めながら、

「じつは、わたしはこの卒業生でして……。このような形で母校を訪れることになるとは夢にも思いませんでした。」

と、お声かけくださいました。

また、横浜市の学校給食関係の会議に参加した時には、机の上に「城郷小学校長」の名札を見つけた会場の代表者が、

「今日は私の母校の城郷小学校から校長先生が来られており、驚いております。」

と、冒頭に小学校時代の思い出を語られてご挨拶いただいたこともありました。

今年残念ながら、地域の方や関係諸氏を招いての創立記念式典を開催することはできませんが、子どもたちが主体となって、学校の120歳の誕生日を祝う創立記念式を行い、その報告を兼ねて歴史と現在の学校の様子を紹介する記念リーフレットを関係各位にお配りすることで、皆様にもお祝いしていただこうと考えています。

今月も本校教育活動に、地域・ご家庭でのご協力をお願いいたします。

いちよぼん



さくぼん

しろさとせろいちにいぜろ
城郷0120